

茨木市立山手台小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和6年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------------|---------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②情報の扱い方に関する事項 | やや課題が残る結果であった |
| ③我が国の言語文化に関する事項 | 課題が残る結果であった |
| ④話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ⑤書くこと | やや課題が残る結果であった |
| ⑥読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- 1 二 (二) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率が低い。
- 2 (一) 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題の正答率が低い。
- 3 (三) 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題の無解答率が高い。

分析

全体的に「概ね良好な結果」であった。

特に言葉の特徴や使い方に関する問題の正答率が高い。ことば集めなど語彙を増やす取組みや短文づくりをはじめ、すべての教科や日常生活において既習漢字を文の中で正しく使う習慣の結果であると考えられる。引き続き取組みを継続していく。

読むことの記述式の無解答率が高い。自分の感じたことを簡潔にまとめ、条件に合うように記述することに課題が見られる。係り受け解析、照応解決を意識させる取組みの継続が必要である。

目的や意図に応じて、理由を明確にししながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することは、今後身に付けていくべきスキルである。国語科の授業だけでなく、すべての教科でリーディングスキル（文章を正しく読み取る力）を意識した取組みを進める必要がある。リーディングスキルを高めることで、必要な情報を取捨選択し、自分の考えを簡潔に説明できる力を養うことが必要である。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ①数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④データの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- 3 (3) 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題の無解答率が高い。

3 (4) 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率が低い。

分析

全体的に「概ね良好な結果」であった。

特にデータの活用の正答率が高い。円グラフや折れ線グラフなどの数値を読み取り、条件に当てはまる問題を理解していると言える。リーディングスキルのイメージ同定を意識した授業づくりの効果が結果に結びついたと考えられる。

しかし、図形の正答率が低い。立方体などの形の定義を理解し、そのことを活用して解く問題に課題が見られた。限られた時間の中で、問題文から必要な情報を読み取り、既習知識を使って正解を導くための手段や方法を自分なりの言葉で説明できる力を身に付けさせる必要がある。つまり算数科でもリーディングスキルの向上を目指した取り組みが必要であると考えられる。基礎基本の定着は勿論、「なぜそうなるのか」「どんな場面で必要か」を常に考えさせる「生きた授業」を心掛けたい。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

国語、算数ともに平成21～27年度は全国平均より上回っているが、平成28年度より全国平均を下回る年度もある。

前年度に比べて無解答率が増加している。算数、国語ともに記述式の問題については、後半になるにつれ無解答が増えている。これは、問いの意図を迅速、かつ正確に読み取る力（リーディングスキル）の弱さから、問題の意味を理解するまでに時間がかかってしまっていることや要点を簡潔に短くまとめる力（要約する力）に課題があり、最後のテスト問題まで時間内に到達できなくなっていることが要因であると考えられる。

これを受けて、教科横断的にあらゆる活動において考えを深め、相手に自分の考えを端的に分かりやすく伝える場を多く設ける必要があると考える。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

平成19年度は、エンパワー層が多く学力差がはっきりとしていた。その後はどの層も多少の増減はあるがエンパワー層が減少しており、学力差が縮まってきている。しかし、今年度は、国語の学力低位層が増えてしまっている。全国平均と比べてみると学力向上に向けていっそうの努力が必要と思われる。ただ、算数の学力低位層は今年度減少している。引き続き言葉を大切にしながらリーディングスキルを意識した授業づくりを続けていきたい。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

授業づくり ～リーディングスキルを意識した授業改善～

- ・発問の工夫：学習課題を明確にし、児童と共有する
- ・読む力（考える読み）の強化、語彙力の強化を図る：「言葉の宝石箱」（言葉集め）を掲示する
- ・係り受け解析の強化を図る：基本的な文章構造を意識させるための掲示物を全学級に設置する
- ・メタ認知の強化：振り返りを習慣化する
- ・MIMの取組みを推進する

今までの山手台小学校の取組みの継続

- ・授業の中で、交流を通し児童どうしのつながり力の向上を図る：ホワイトボードを活用し、子どもの思考力を可視化する
- ・問題解決学習を推進する
- ・授業の視覚化、構造化、協働化の定着を意識する
- ・効果的なタブレットを活用する
- ・山手台スタンダード、100点筆箱、学習のルールの定着を意識し、授業の規律を整える
- ・校内研修会を定期的に行い、教職員の方向性をそろえる

基礎的な学力の育成

- ・朝学習を充実させる
- ・スクールサポーターと連携し、個に応じたきめ細かな指導、学力の向上を図る
- ・読書カードによる読書活動を記録化し、いつでも把握できるようにする
- ・中央図書館と連携し、読み聞かせなどにより意欲的に読書に取り組めるようにする

家庭との連携

- ・学習・生活アップ週間を実施する
- ・家庭学習の手引き、自主学習の定着を図る：音読カードや九九カードの取組み

小中連携の強化

- ・6年生クラブ見学を行う
- ・北陵中学校区合同研修会を実施し、ブロックの小中学校が共通認識の下で共通実践を行う